

ビデオ 通信

2021年
1月14日(木)
No.4439

月・木曜日発行
1ヶ月¥11,000(税別)
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

ユニ通信社

〒106-0047
東京都港区南麻布5-2-37
DEPECHE MODE 4F
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

太陽企画

YouTube LIVE 番組「WONDER WHEEL」を展開

3DCGをリアルタイム合成したゲストアーティストのミニライブ
コンセプトは“エンターテインメントの新たな配信のカタチ”
エクサイナターナショナルのバーチャルスタジオから生配信



太陽企画(株)が手がけている YouTube LIVE 番組「WONDER WHEEL」が好評を博している。同番組は、コロナ禍でアーティストのレコード発売インスタライブの実施が難しくなってきた昨今、アーティストとファンのつながりをオンラインで行う場にする音楽番組

で、東京・港区赤坂にある(株)エクサイナターナショナルのバーチャルスタジオから月1回、生配信している。コンセプトは“エンターテインメントの新たな配信のカタチ”。3DCGをリアルタイム合成したバーチャルステージを駆使するゲストアーティストによるミニライブとトークを展開する。レギュラーMCはヒップホップグループ「サイプレス上野とロベルト吉野」のサイプレス上野と、アイドルグループ「フィロソフィーのダンス」の奥津マリリ。さらに、番組と連動したCDやグッズの販売、talkportによるオンライン特典会を同時開催する。アーカイブを配信しないことで、リアルインスタライブにより近い「この時間、この場所でしか得られない体験」を提供する。企画・制作は seedive + メロディフェア + 太陽企画「tip」、3DCG・映像制作を太陽企画「+Ring」が担当する。11月の第1回、12月の第2回配信に続き、1月19日には第3回「WONDER WHEEL」の YouTube LIVE 配信を開催。CMJK、Ellie、a子、バンドじゃないもん！MAXX NAKAYOSHI、ukka が出演する。



エクサイナターナショナルのバーチャルスタジオ

新しい表現「CG 空間におけるライブ」

これまで、アーティストが新譜を発売する際には大手レコード・CD ショップにおいて、アーティストとファンがつながるミニライブや握手会などの特典を展開していたが、コロナ禍によってその開催ができない状況が続いている。

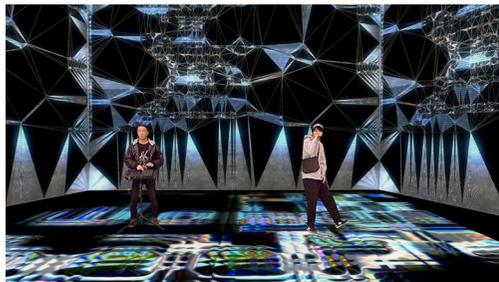
「WONDER WHEEL」は、そうした新譜を発売するアーティストとファンのつながりをオンライン上で実現する番組となっている。「WONDER WHEEL」を手がける経緯について、太陽企画 tip ビジネスプロデューサー／プロデューサーの滝田英哉氏は〈アーティストがオンラインでライブ配信するケースは増えていますが、やはり若干の既視感が否めない中で、バーチャルスタジオのような「CG 空間におけるライブ」は新しい表現だと考えました。音楽番組ですから「高いクオリティの映像と安定した配信」、出演者や曲数も少なくないため「フレキシブルな運用」が絶対条件でしたが、エクサイターナショナルのバーチャルスタジオを紹介されて「これだ!」と確信しました。音楽番組を手がけるのは初めてですが、元々音楽は大好きで、ミュージックビデオも数多く手がけてきました。仲の良い音楽事務所の人たちと「これからの音楽配信はどうなっていくか」という話をしている中で「フル CG の世界の中でライブ、というのはいいよね」というアイデアが出ていました。AR や xR 的な新しい技術も絡めていきたいと思っていますが、「何ができそうか」というケーススタディも含めて今後につなげていきたいと考えています〉としている。



滝田英哉氏

インスタイベントで行われるものすべてをオンライン上で展開する

「WONDER WHEEL」のメインコンテンツとなるのは、3DCG 空間の中で展開されるアーティストやアイドルのミニライブ。現在は「アーティスト枠」「アイドル枠」の2つの音楽ジャンルを扱っている。ライブの背景に用いられる 3DCG のほとんどは太陽企画の CG チーム「+Ring」が制作している。〈曲に関しては事前にスタッフ間で共有し、その曲にマッチした CG 空間を CG チームと



第 2 回配信で 3DCG 背景によるライブを行った
ぜったくん (上)、Devil ANTHEM. (中)

ディレクターで詰めていきます。1 組のアーティストの持ち歌は 3 曲なので、毎回 12 ~ 15 曲分の CG 背景を使用することになります〉(滝田氏)

通常のインスタイベントでは、発売記念のライブに加え、CD を購入したファンがアーティストやアイドルと握手できるような「特典会」も大きな魅力となっているが、「WONDER WHEEL」では、番組と連動して限定グッズの販売や、CD 購入者を対象に、seedive が提供する「talkport」で出演者との「オンライントーク特典会」を実施している。〈インスタイベントで行われるものをオンライン上で展開するのが「WONDER WHEEL」ですから、こうしたものに親和性の高い出演者をブッキングしてもらっています〉と滝田氏。

さらに、「WONDER WHEEL」ではコンテンツをアーカイブしないことが大きな特徴となっている。滝田氏は「YouTube は映像をストックできるメディアであり、アーカイブを配信することでファンの方々にもっとたくさん観ていただくこともできますが、あえてアーカイブしない。「今、リアルタイムでしか観られないもの」＝「実際のライブと同じ体験」をバーチャルで提供する場



MC の奥津マリリ (左) とサイプレス上野 (右)

であるとも言えるでしょう。今、映像はいつでもどこでも楽しめる時代にあって、「この時間、この場所でしかできない体験」というのは、ファンにとっては価値のあるものになると思いますし、YouTube 慣れしている世代にしてみれば新しい体験なのかも知れませんね」と説明する。

tip では「動画ありき」ではない提案、社内リソースのインサイドセールスも

「WONDER WHEEL」をメインで運営しているのが、太陽企画が 2019 年に発足した「tip」(Taiyo Integrated Planning & Produce) だ。

tip について滝田氏は「取り組んでいることが多く、一言でいうのは難しいですが、CM 制作や動画映像制作がメインではないこと。もちろん映像制作は当社の強みですが、それはあくまでも手段・手法の一つ。映像ありきの提案ではなく、様々な企業やサービスの課題に対して最適な手法を用いて解決できるようにする。さらに映像制作の場合でも、現在は多種多様の映像があり、目的にあった最適な映像の提案・制作、パートナーであるデジタルマーケティングカンパニーによる運用も行います」とする。もう一つの顔は、社内の HUB となってインサイドセールスを行うこと。例えば、今回の「WONDER WHEEL」における +Ring の CG 制作をはじめ、次世代ビジネスモデルをつくるチーム「TAIYOKIKAKU R&D」が注視している「フォトグラメトリ」など、社内にあるリソース（技術力）をいかに世の中に打ち出していくかという戦略も担っている。ビジネスフィールドでは ESG（環境・社会・ガバナンス）に注力しているという。滝田氏は「多くの企業が SDGs（持続可能な開発目標）や ESG への取り組みに着手していますが、その企業の特徴やプロダクトを活かして、少しでも世の中のためになるような企画立案と一緒に携わらせてもらいたいと思っています。私も tip の「ビジネスプロデューサー」として、ビジネスをつなげる意識で日々仕事をしています」とする。

また、tip の今後の活動について「ライブ配信のニーズはしばらく続くのではないかと考えているので、B to C 領域、特に音楽に関してはアーティストとファンのニーズに応えられるような知見と技術を身に付けていきたいと考えています。B to B 領域でも経験を活かした発表会や展示会などへの展開の可能性も感じていますし、5G の活用も視野に入れています。当社のビジョンでもある、映像制作で培った技術や演出力などの「ものづくり魂」で、時代のニーズに応えるための進化を続けていきたい」と話している。

フル稼働状態の「バーチャルライブ配信スタジオ」

「WONDER WHEEL」が配信されているエクサイントーナショナルの「バーチャルライブ配信スタジオ」の稼働が順調に推移しているという。同バーチャルスタジオは、同社が本社を移転した 11 年前にオープンしたもので、元々演劇ホールだった地下 1 階・2 階部分吹き抜けのスペースを



バーチャルライブ配信スタジオ（下）のサブ（左）、配信を担当するスペース（中）、クレーン（右）



活用しており、面積は約 60 坪で、ブルー・グリーンバックを使用したクロマキー収録や 3DCG バーチャル収録のほか、白バックによる通常撮影にも対応している。天井高が 5.5m あるため、クレーンを使った臨場感のある演出も可能。昭特製作所の VR センサー「TP-90AVR」× 3 式（ペDESTアル）と「TK-38VR」× 1 式（クレーン）を導入している。専用サブには朋栄のスイッチャー

「HVS-2000」を装備し、4 台のカメラによるマルチ収録が可能で、ライブ配信の際には配信系のスイッチングも同サブで行う。6 室の出演者控室や関係者のラウンジとして利用できるギャラリーを完備しているほか、昇降可能な舞台装置を 8 基搭載している。また、昨今のライブ配信ニーズに対応すべく、常設回線を 3 回線（NURO スタンダード× 2 回線、フレッツ光× 1 回線）導入し、よりスムーズな配信が可能な環境を整えた。換気に十分気を配っているほか、カメラやインカムなどスタジオ内で触れるものの消毒、空気清浄機をホール内に 2 台、サブに 1 台、各控室にも設置するなど、新型コロナウイルス感染対策も徹底している。

同社では 3D バーチャルシステムに Brainstorm × Unreal Engine システムを導入し、Unreal EnginCG 運動によるキレイで動きの滑らかなリアルタイム合成が可能な「バーチャルライブ配信スタジオ」のサービスを展開しており、すぐに利用できる 3DCG ライブラリーを 200 種類用意。11 月に開催されたオンラインイベント「Brainstorm Club Meeting 2020」にも同スタジオが活用されているという。

エクサインターナショナル 営業部 マネージャーの中澤 壮氏は〈バーチャルスタジオは、以前は番組収録がメインでしたが、コロナ禍によってレギュラー番組の多くがキャンセルになってしまいました。緊急事態宣言が明け、少しずつ業務を回復させていこうと考えていたところ、企業のイベント活用に関する問い合わせが急増しました。また、インターネット系のライブイベントが徐々に数を伸ばし始めたこともあって、現在はフル稼働している状態です。これまで映像とは全く無関係だったイベントプロデューサー会社など、お客様の幅が大きく広がってきていますが、当社では映像や配信などを含めてトータルなバーチャルスタジオライブ配信サービスを展開しています〉と話す。



中澤 壮氏

- ◇ WONDER WHEEL 公式サイト <https://www.wonderwheel.jp/>
- ◇ 太陽企画 <http://www.taiyokikaku.com/>
- ◇ エクサインターナショナル <https://www.exa-int.co.jp/>